

## 副首都推進本部会議

### 《第13回議事録》

■日 時：平成30年4月2日(月)13:00～13:15

■場 所：大阪府咲洲庁舎2階 咲洲ホール

■出席者（名簿順）：

松井一郎、吉村洋文、新井純、中尾寛志、田中清剛、山口信彦、山本剛史、井上幸浩、吉田真治、安井健二、柏木陸照、鳥山孝之

(井上事務局次長)

それでは、ただいまから副首都推進本部会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議は、大阪府と大阪市によります指定都市都道府県調整会議の位置づけのもと、G20大阪サミット推進本部の設置についてを議題として予定をしております。

本日の出席者につきましては、お手元に配付しております出席者名簿のとおりでございます。

それでは、早速でございますが、資料の説明をお願いいたします。

(吉田大阪府政策企画部サミット協力監)

大阪府政策企画部のサミット協力監の吉田と申します。よろしく申し上げます。

そしたら、座ってご説明させていただきます。

それでは、資料のほう、2019年G20大阪サミットの開催についてという資料をご用意させていただいておりますので、それに基づいてご説明させていただきたいと思っております。

まず、資料を開いていただいて、1ページをご覧くださいと思います。

G20大阪サミットにつきましては、一番後ろの6ページ、7ページに概要をつけさせていただいておりますが、去年の11月に副首都推進本部会議、この会議で府市共同でサミットを誘致していこうということを決定していただいて、その後、誘致活動に取り組んで、今年の2月20日、1ページの真ん中にありますけれども、大阪での開催が決定いたしました。

概要につきましては、下段に書かせていただいておりますが、来年6月から11月の間で2日間開催と、会場についてはインテックス大阪、参加者は各国首脳、政府関係者、プレスを含めて3万人が来られるという、総理も史上最大の会議だというふうにおっしゃっておりますが、この会議を、サミットを大阪で開催するということになっております。

資料をめくっていただいて、2ページをご覧くださいと思います。

この開催都市決定後、サミットの成功に向けてということで、関西のホスピタリティを發揮し、最高のおもてなしでお迎えする必要があるということから、3月6日、大阪府・市、関西広域連合、経済界で構成する2019年G20大阪サミット関西推進協力協議会を設立いたしました。会長に松井知事、会長代行には吉村市長にご就任いただき、副会長として関西広域連合長、関経連の会長、大商の会頭、同友会の代表幹事にご就任いただいております。

3ページをご覧くださいと思います。

協議会の事務局を担う組織として、昨日4月1日付で協議会事務局を立ち上げました。事務局長、私がさせていただくとともに、府、市、大商、それぞれから次長を出していただきまして、国との調整、協議会運営を担う総務部、それと広報やPRイベント、プレス対応などを担う企画部、住民・事業者との調整や府警との連絡調整を担う事業調整部の3部で構成いたしてまいります。

事務局は府、市のほか、府警本部や経済界、関西各府県からも派遣いただき、本日は35名体制ということで立ち上げさせていただきますが、逐次増員させていただいて、夏ごろには約50名程度の体制になる予定となっております。

開いていただいて、資料4ページをご覧ください。

今後、オール大阪・関西での準備を進めるに当たり、中心となるのが先ほど申し上げた協議会です。この協議会の事務局を担う我々が司令塔的な役割を担わせていただいて、サミット準備業務の企画・立案、警察、ホテル等関係団体との調整を進めることとなります。

しかしながら、準備業務につきましては、府民・市民の皆さんの理解・協力促進、安全・安心、おもてなしの環境整備など多岐にわたりますことから、事務局だけで対応できるものではないというふうにとめております。

そこで、大阪府・市の各部局が主体的に自らが有するポテンシャルをフルに発揮していただいて、迅速・的確に取組みを推進することを目的といたしまして、G20大阪サミット推進本部を設置させていただくことにしたいというふうに考えております。

推進本部につきましては、本部長に知事、副本部長に市長にご就任いただき、副知事、副市長、関係各部局で構成いたします。危機管理や医療対策など、府市で一体的に取り組むべき項目につきましては、例えば保健医療対策PT、防災・危機管理PTなどのプロジェクトチームを設けて、それぞれの関連部局主体で取組みを進めていただく体制を整備していきたいと考えております。

また、PTによる議論を受けて、さらに高いレベルで調整を行う必要が出てきた場合には、副知事・副市長調整会議を開催し、必要に応じて各部長、区長の参加もお願いしていきたいというふうに思っております。

なお、プロジェクトチームにつきましては、保健医療対策、防災・危機管理に加えまして、住民・事業者への理解促進のため、区役所等が主体的に体制等について検討いただく住民・事業者等調整PTや観光や物産PRのためのおもてなしPTの設置なども今後検討してまいりたいというふうに考えております。

資料5ページをご覧ください。

国と地元協議会、自治体等の役割を整理させていただいています。国におきましても、一番上のほうに書かせていただいています。国におきましても、G20の日程が決まり次第、関係省庁会議を立ち上げ、各省庁において具体的な検討がスタートするというふうに伺っております。

地元からは、その関係省庁会議のほうにサミット協議会の事務局長である私が参画させていただいて、外務省など、国機関との一義的な窓口として対応させていただく予定となっております。

地元の体制といたしましては、推進協力協議会、その事務局を担う我々が司令塔的な役割を担いつつ、オール大阪・関西で取組みを進めてまいりますとともに、府市の行政とし

て対応すべき項目につきましては、先ほど申しました推進本部において、その中で府市一体で対応すべき項目につきましてはPT、府市それぞれの部局で対応すべき項目につきましては、府市の関係各部局、区役所において主体的に取組みを推進していただきたいというふうに考えております。

なお、危機管理や医療対策等につきましては、もちろん府市一体的に取り組む必要がございますが、近隣府県の協力、あるいは経済界の協力も今後必要になってくるかなというふうに考えておまして、将来的には、そこの一番下の点々内に書かせていただいていますけれども、将来的には広域連合や経済界の参画も今後検討してまいりたいというふうに考えております。

これからこの協力協議会事務局を中心にサミットの準備を鋭意進めさせていただきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私からの説明は以上です。

(井上事務局次長)

ありがとうございました。

本件について何かございますでしょうか。

本部長、お願いします。

(松井本部長)

このG20サミットは何が何でも成功させると、なければならないと、こう思っています。このG20サミットをすることによって大阪の都市格は向上するし、それからやっぱり世界へ向けて大阪というものを知っていただく最高の機会だと。そのためにはやっぱり大阪のこの売りでもあるホスピタリティというものが非常に重要になってくると。

要は、これG20サミットは役所と経済界だけではなくて、やっぱり府民の皆さんも一緒になって盛り上げてもらうというか、協力していただいて初めて成功だと、こう言えると思うんです。ただ、やっぱり府民の皆さんにある一定、ご負担もお願いをしなければならない。特にこの住之江のこのエリアについては、非常に各国要人が来られるということで、いろいろな規制もされるという中で、日々、日常生活への負担というものも発生するし、そのことによってお住まいになっている人、この周辺で働いている人の皆さんがちょっと不満もお持ちになるかもしれない。でも、そういう人たちにも理解していただいて、ご協力いただくというのが一番ポイントになってくると思いますので、この組織の中で、この調整会議のメンバーの外に区役所が連携することになっているけれども、この住之江区において、これは住之江区はやっぱり区長は直接推進本部の中に入らせていただいて、日々やりとりできる体制というのがこれは大切なのかなと、こう思うので、ぜひそういう形でちょっと吉村市長にもお願いをして、そういう形の組織というものをしてもらいたいと思うんですけれども、市長、どうですか。

(吉村副本部長)

まさに住之江区においては、先ほど知事が言ったように、やはりいろいろな負担もお願いする形になると思います。だから、事前にいろいろな規制があることとか、住民の皆様

の理解を得ていくというのが非常に重要になってくると思っています。

そういった意味で、住之江の区長に積極的にここの推進本部に参画してもらおうという形でメンバーに入ってもらったらいと思います。ですので、この推進本部の本部員の中に副知事、副市長、それからそれぞれの部長、局長がいますけれども、ここに住之江の区長も入れるという形で進めていきたいと思っています。

もちろん区長は日常業務がありますから、その周りの状況を見て、この咲洲に常に出入りするのは難しいですけれども、この推進本部の本部員の中に住之江区長も入ってもらって、事務局と常に密に連絡をとっていってもらおうという形にしたいなと思います。

それから、この後、大阪市でも庁舎内の連絡会議をつくりましますけれども、住之江区長については、それぞれの区長のリーダーにもなってもらおうというふうにも思いますので、ここの推進本部の本部員に住之江区長を入れてもらいたいなというふうに思います。これはまた僕から指示します。

(井上事務局次長)

ほかに何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

新井副知事、お願いします。

(新井大阪府副知事)

実は午前中の庁内の会議でも言うたんですけれども、外務省のほうからもいいと了解をいただいているので、ぜひG20大阪サミットということで対外的にも発信していただきたいなというふうに思いますので、そこのところはよろしくお願いします。

それと、今日、若干庁内でも誤解じゃないですけれどもあったんですけれども、基本はサブスタンスは国がやると、地公体の役割はロジスティックであるということがあります。もちろんロジの中にもそれぞれの役割分担があると思いますけれども、そこを基本にしながら、ただ言うても大阪の都市魅力の発信であるとか、あるいはビジネスの関係とかについての政策的なものというのは打ち出していかなあかんと思いますけれども、基本はその役割をしっかり踏まえた上で各関係者と対応していただきたいなというふうに思います。G20大阪サミットということでよろしくお願いします。

(田中大阪市副市長)

私のほうからも一言、知事のほうから今、住之江区の話がありまして、そのとおりだと思っています。ただ、もう一つは宿泊地から会場とか、その辺のVIPのルートが多分通行規制とか、そういうことがかかる可能性があると思うんですね。それは多分、国が中心になって検討されると思うんですが、やはりそうなるとその通るところだけじゃなくて、その影響を受けるほかのところの手当てをしなあきませんで、できるだけ国と府と情報を連絡を密にして、もちろんオープンにできない話もあるでしょうけれども、事務方のほうでは着々と進めたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(井上事務局次長)

ご意見、よろしいでしょうか。

(吉村副本部長)

とにかく本部員に住之江区長も入ってもらって、その後、いろいろなことを進めていく中で、宿泊のメインになってくるのは北区とか中央区とかがメインになってくると思いますから、随時、市民に、区民に理解を求めなければいけないというエリアが出てくると思いますから、そういった区長は主体的にやっぱりやってもらわないといけないので、順次追加する可能性も踏まえて、まずは住之江区長がやっぱりあそこのインテックスでやりますので、まずは本部員に入ってもらおうというふうに思います。

(中尾大阪市副市長)

すみません、住之江区長は今、大阪市の区長会の会長なんです。ですから、彼が入ると、区長のほかのメンバーに全部伝わるということになりますので、そういう面でそういう使い方をしていたらいいかなと思います。

(松井本部長)

タイムリーやね、それ。

(井上事務局次長)

そしたら、よろしいでしょうか。

そしたら、本日いただきましたご意見も踏まえまして、報告がありましたとおり、G20大阪サミットに向けまして、推進協力協議会の会長、会長代行であります知事、市長のもと、大阪府・市の各部局や区役所等が主体的にポテンシャルを発揮し、迅速・的確に取組みを推進するということを目的として、G20大阪サミット推進本部を立ち上げるということによろしいでしょうか。

(松井本部長)

はい、了解。

(井上事務局次長)

ありがとうございました。

それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。